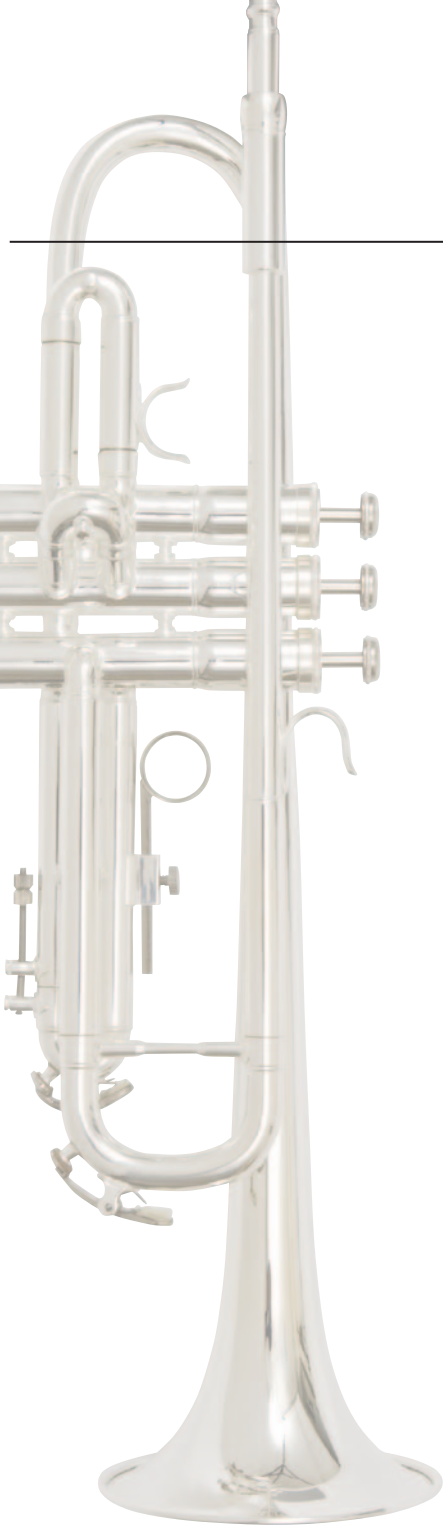


Wind Instrument

- Trumpet
- Pocket Trumpet



安全上のご注意

ご使用の前に必ずお読み下さい

注意事項は製品を安全かつ正しくご使用して頂く為のものです。あなたや他の方への危害を未然に防止する為にも必ずお守り下さい。

⚠️注意

⚠️：注意事項 ⓧ：禁止行為

⚠️ オイル、ポリッシュ類をお子様
が口にしない様、ご注意下さい。

⚠️ ぶつけたり、落下や転倒によって
変形する恐れがあります。

外観を損なうだけでなく、抜差管
やマウスピースが抜けなくなるこ
とにつながります。取扱いには十
分ご注意下さい。

⚠️ 楽器を火気に近づけないで下さい。
変形につながり演奏に支障を及ぼ
す恐れがございます。

ⓧ 部品が抜け飛ぶなどして危険です
ので楽器を投げたり、振り回し
たりしないで下さい。

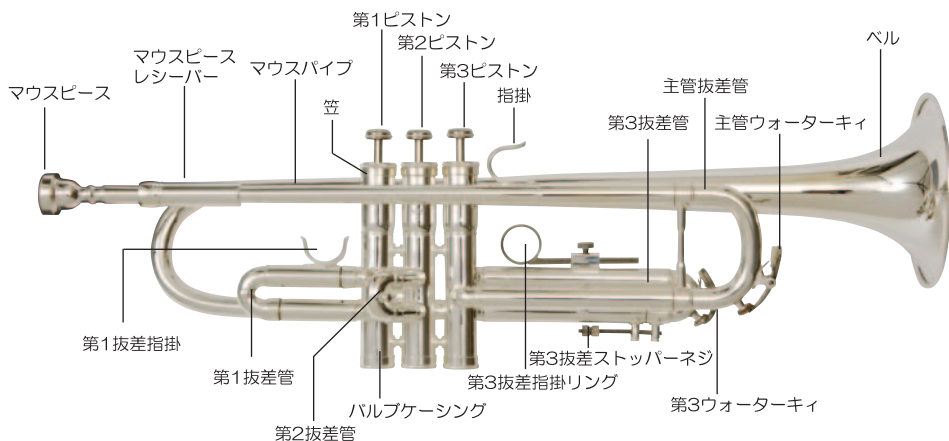
ⓧ お手入れ用品は、メッキの種
類に合った専用のもをお使い下
さい。ベンジンやシンナーは使
用しないで下さい。また、ポリ
ッシュは表面を磨き取るもので
すのでメッキが薄くなること
があります。あらかじめご了承
下さい。

ⓧ 調整、修理が出来なくなる
恐れがありますので、改造は
おやめ下さい。保証の対象外
となります。

各部の名称

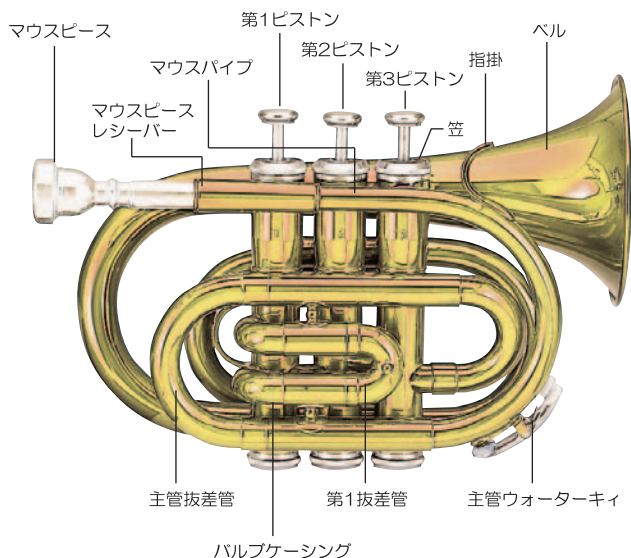
■ トランペット

(モデルによって仕様が異なる場合がございます)

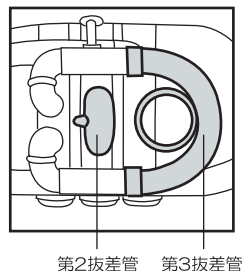


■ ポケット・トランペット

(モデルによって仕様が異なる場合がございます)



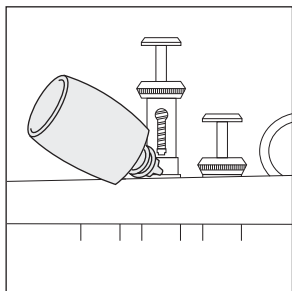
■ 背面



演奏の準備

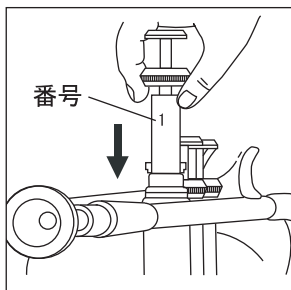
■ バルブオイルの注油

- 1、笠ネジを緩め、ピストンをまっすぐ途中まで抜きます。
(全て抜いてしまうと落下や余分な汚れが付着する恐れがあります)
- 2、ピストンにバルブオイルを2～3滴注入します。

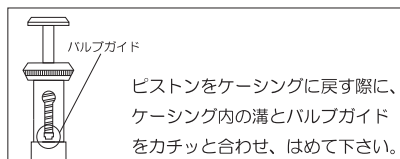


※ オイルのさし過ぎにご注意下さい。
さし過ぎは動作の妨げになる恐れがございます。
また、ゴミが入らないようにご注意ください。

- 3、ピストンをゆっくりバルブケーシングに戻します。
このとき、ピストンに刻印されている番号がマウスピース側に来るように向きを合わせます。笠ネジをしっかりと締めた後、2～3回ピストンを上下させ、バルブオイルをなじませます。



※ ピストンをバルブケーシングから完全に抜き、もう一度戻す時は、バルブケーシングに刻印されている番号とピストンに刻印されている番号を、必ず合わせて下さい。



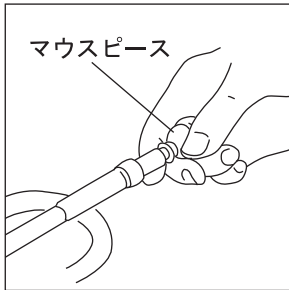
⚠ 注意！

ピストンはトランペットの心臓部ともいえる重要な部品です。ピストンを落としたりぶつけたり、乱暴に扱わないよう十分にご注意下さい。また、バルブオイルの注油を怠ると、ピストンの動きが悪くなります。ご注意ください。

演奏の準備

■ マウスピースの装着

マウスピースはガタつきがなくなる程度まで軽く差し込みます。



※ マウスピースは絶対に強く押し込まないで下さい。
抜けなくなる恐れがあります。

⚠ 注意！

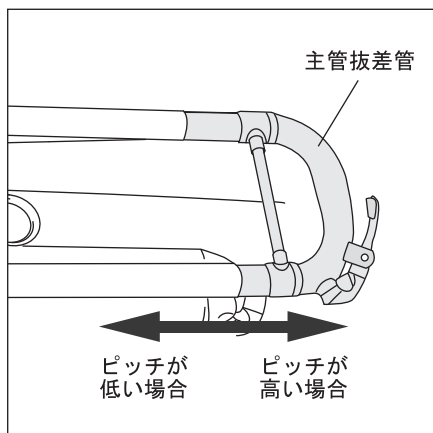
マウスピースはマウスピースレシーバーにガタなくしっかり装着できるように設計されています。マウスピースを落としたりぶつかけたり、乱暴に扱わないよう十分にご注意下さい。また、マウスピースを装着し、ボンボンと叩き音を出す行為はマウスピースが抜けなくなる原因となる為おやめ下さい。

演奏の準備

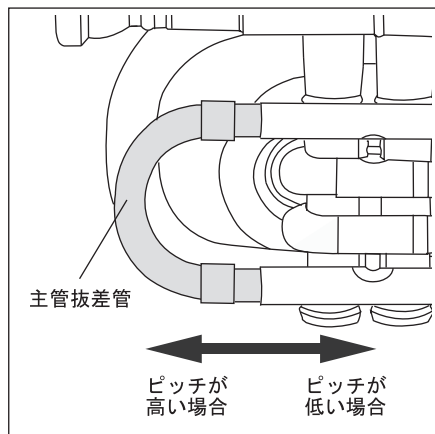
■ チューニング

チューニングは主管拔差管をスライドさせて行います。
チューニングは気温に影響されやすいですので、
事前に息を吹き込んで、楽器を暖めてから行って下さい。

・ トランペット



・ ポケットトランペット



ポイント

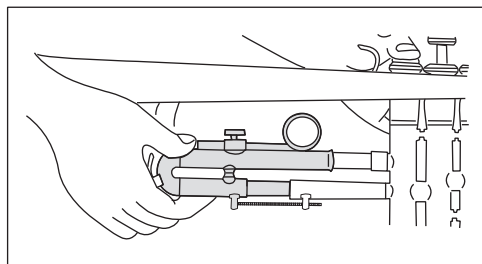
音程はアンブシュア（唇周辺の形）や圧力、息のスピードによって変化させることができます。それぞれにご自身の中で固定したうえで抜差管での微調整を行きましょう。

演奏後のお手入れ

演奏後は必ず、楽器内部の水分や、汚れを拭き取って下さい。

■ 抜差管のお手入れ

1、抜きたい抜差管のピストンを押しながら、抜差管を抜きます。

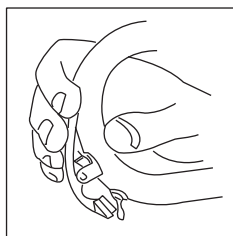
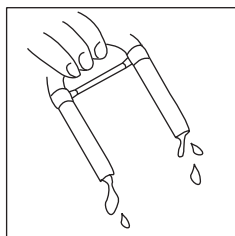


※ 第3抜差管は、ストッパーネジを外してから抜いて下さい

※ ピストンを押さずに抜差管を抜差すると、管内の気圧が変動し、動かしにくかったり管内を痛める恐れがあります。

2、抜いた抜差管から水分を出します。

また、ウォーターキーからも水分を出します。



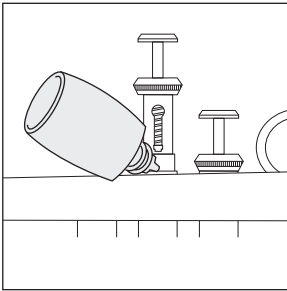
※ 抜差管の素材は耐食性に優れていますが、水分が長時間残ると腐食する場合がございますのでご注意下さい

演奏後のお手入れ

演奏前と同様にピストンにバルブオイルを注油して下さい。

■ バルブオイルの注油

- 1、笠ネジを緩め、ピストンをまっすぐ途中まで抜きます。
(全て抜いてしまうと落下や余分な汚れが付着する恐れがあります)
- 2、ピストンにバルブオイルを2～3滴注入します。
- 3、ピストンを2～3回動かします。



※ オイルのさし過ぎにご注意下さい。
さし過ぎは動作の妨げになる恐れがございます。
また、ゴミが入らないようにご注意ください。

■ 楽器表面のお手入れ

楽器の表面は専用クロスで軽く拭きます。

汚れや変色が目立つ場合は、それぞれのメッキの種類にあった専用ポリッシュを使用して下さい。

末永くお使いいただく為に、必ずお手入れをしましょう

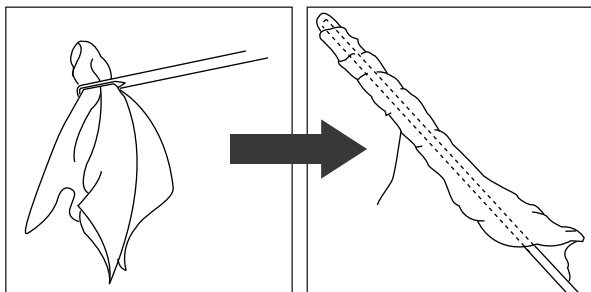
- バルブオイルやスライドグリスが切れないう、演奏前に確認しましょう。
- 演奏後には抜差管から水分を抜きましょう。
- 定期的に楽器の点検・お手入れをしましょう。

ピストンの動きが悪くなったと感じたら…

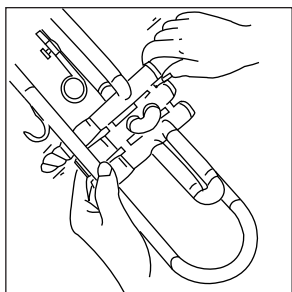
ピストンとケーシングの間は 1/100 ミリ単位で上下運動する非常に繊細な箇所のため、動きが悪くなったと感じたらピストン、バルブケーシングの清掃後、バルブオイルを注油して下さい。

■ ピストンとバルブケーシングのお手入れ

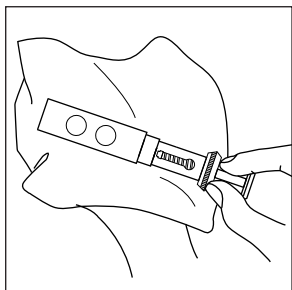
- 1、クリーニングロッドの樹脂が露出しないようガーゼをクリーニングロッドに巻きつけます。



- 2、ガーゼを巻きつけたクリーニングロッドでバルブケーシングの内側の汚れを拭き取ります。



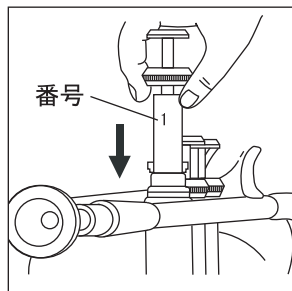
- 3、ピストンの汚れを拭き取ります



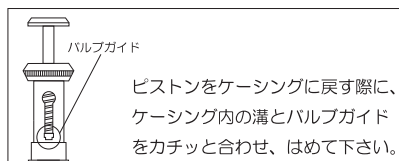
ピストンの動きが悪くなったと感じたら…

4、ピストンをゆっくりバルブケーシングに戻します。

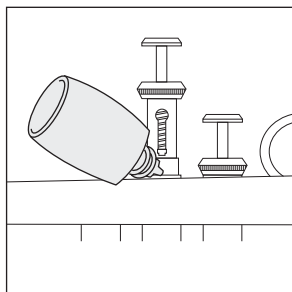
このとき、ピストンに刻印されている番号がマウスピース側に来るように向きを合わせます。



※ ピストンをバルブケーシングから完全に抜き、もう一度戻す時は、バルブケーシングに刻印されている番号とピストンに刻印されている番号を、必ず合わせて下さい。



5、ピストンにバルブオイルを2～3滴注入します。



※ オイルのさし過ぎにご注意下さい。

さし過ぎは動作の妨げになる恐れがございます。
また、ゴミが入らないようにご注意ください。

※ 息を入れたときに、息が通らない場合は
ピストンが間違っって入っている恐れがありますので
もう一度ピストンの番号とバルブケーシングの番号が
合っているか確認して下さい。

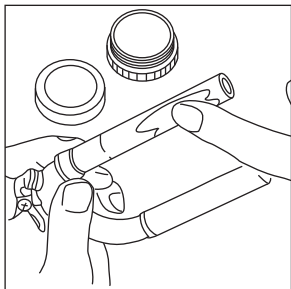
⚠ 注意！

ピストンはトランペットの心臓部ともいえる重要な部品です。
ピストンを落したりぶつかけたり、乱暴に扱わないよう十分
にご注意下さい。もしも、ピストンが傷ついたり変形した場
合は、決してバルブケーシングに入れず、お買い上げの販売
点にご相談下さい。

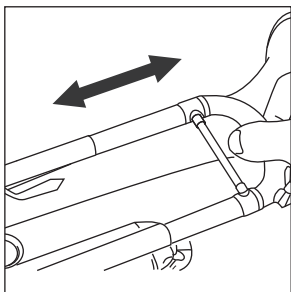
抜差管のお手入れ

抜差管表面もピストン同様汚れがたまると動きが悪くなり、固着の原因となります。定期的にスライドグリスを塗って下さい。

- 1、各抜差管にスライドグリスを薄く塗ります。



- 2、スライドグリスがまんべんなく行き渡るよう、2～3回スライドさせます。



故障かな…? と思ったら

■ 音が出ない、音色がおかしい

- ・ピストンの穴とバルブケーシングの穴の位置が合っていない
→ピストンに刻印されている番号と向きを確認しましょう
楽器を構えた状態で、手前から順に1,2,3と刻印が見える向きが正しい向きです。
- ・溶接箇所のハンダがはずれている。管内に異物がある。
→お買い上げになった販売店にご相談下さい。

■ ピストンの動きが悪くなった

- ・ピストンとバルブケーシングの間が汚れている（ほこり、砂等）
→ピストン表面とケーシング内の清掃を行きましょう。
- ・ピストンがさびている
→お買い上げになった販売店にご相談下さい。

■ ピストンを押すとカチャカチャと音がする

- ・ピストンもしくはバルブケーシングのネジが緩んでいる
→ネジをしっかりと締めなおして下さい。

■ マウスピースが抜けない

- ・マウスピースをつけたまま楽器を落下させたり、ぶついたりした。
- ・マウスピースをつけたまま長時間放置した、または強くはめすぎた。
→無理に抜こうとせず、お買い上げになった販売店にご相談下さい。

